

新収録証言映像上映会

会期：平成 25（2013）年 6 月 25 日～8 月 25 日

今回は、当館で新たに制作した戦傷病者の証言映像をシアターで上映します。戦傷病者でもある現在の当館館長が日本傷痍軍人会の設立からしょうけい館ができるまでのあゆみを語る映像や、日本赤十字社の元救護看護婦が語る映像などを上映します。

■上映映像（カッコ内は証言者の元の身分と証言内容紹介）

「戦傷病者のあゆみと傷痍軍人会」（30分30秒）

（陸軍／昭和 18 年 10 月、満洲にて脊椎と足関節挫傷。戦後の日本傷痍軍人会の結成からしょうけい館館長として語る当館開館までの苦労）

「負傷した者同士で支えあった半世紀」（26分02秒）

（夫：陸軍／昭和 19 年 9 月、沖縄の南大東島での掘削作業中の事故により下顎部損傷、両眼失明、味覚障害）
（妻：陸軍／昭和 20 年 5 月、東部軍女子通信隊員として通勤中に下高井戸駅で空襲にあい顔面及び全身火傷）



療養中、二重橋前で

「救護看護婦そして妻として全力で生きた人生」（20分58秒）

（日本赤十字社／昭和 20 年 7 月以降の陸海軍病院での看護体験と戦傷病者の妻としての苦労）

「戦友をみとり、鎮魂に生きる」（21分38秒）

（陸軍／昭和 19 年 9 月、偵察機搭乗中にフィリピンセブ島で全身負傷。両耳聴覚障害）

「練習機「赤トンボ」の特攻隊」（15分59秒）

（海軍／昭和 20 年 7 月、練習機搭乗中に宮崎県霧島山中に墜落し両足負傷）

「憲兵から捕虜となって」（24分11秒）

（陸軍／終戦後、ソ連軍による抑留生活中に結核に罹患、復員後に発症）

「駆逐艦「雪風」で負傷して」（21分48秒）

（海軍／昭和 20 年 7 月、京都府宮津湾内の雪風艦上で両足負傷）